

新型コロナ「5類」へ移行後も「第9波」がくる懸念は「十分ある」

4/29 ニッポン放送

作家で自由民主党・参議院議員の青山繁晴が4月28日、ニッポン放送「飯田浩司のOK! Cozy up!」に出演。新型コロナの5類移行について解説した。

新型コロナ、5月8日から5類へ移行することが正式決定

新型コロナウイルスの位置づけを「2類相当」から「5類」に引き下げる政府方針の承認受け、会見する加藤勝信厚生労働相=2023年1月27日午後、東京都千代田区 写真提供：産経新聞社



新型コロナの感染症法上の位置づけについて厚生労働省は、5月8日に季節性インフルエンザなどと同じ5類に移行することを正式決定した。これに伴い、政府は5月8日午前0時に予定していた水際対策の終了を、ゴールデンウィークの開始に合わせて4月29日午前0時に前倒しする。

今後は自分で備えなくてはならない

飯田) 正式決定は昨日(4月27日)だったのですね。

青山) 私が専門とする危機管理の一環であり、感染症と関わって今年(2023年)で26年目になります。客観的に申して、これはやはり経済優先です。医師の立場から感染症に関わっている方のなかには、「第9波がくる」と言う方もいます。しかも第8波より深刻だろうという見方もあります。

飯田) そうですね。

青山) どうしても2類から5類になると、感染の拡がり具合については懸念があるので、例えば私の自宅前の内科医さんも「区別できなくなってしまうから」と戦々恐々です。

飯田) 今後の感染拡大が。

青山) 私はいまマスクをしていませんけれど、自分の身体とよく相談して、それぞれ自分で注意する方向に動くということです。政府から規制がかかるのではなく、自分で備えなくてはいけないのです。

第9波がくる懸念はある

青山) 自分の免疫の力は簡単にはわかりませんが、できればかかりつけ医と相談する。かかりつけ医がいない人は、健康診断の結果なども照らし合わせて、ご自分の身体と相談して自衛するしかないですね。

飯田) 自衛する。

青山) 必ず感染は増えます。「第9波」がくる懸念は十分あります。第8波を上回るかどうかは、いまの段階では言えませんけれども。

「マスクをしていれば安全」ということではない

飯田) 人混みに行く場合はマスクを着用したり、帰宅してすぐにシャワーを浴びるとか。

青山) 私が海外の現場へ行っていたときの感染症のマスクは、「N95」よりもキツく顔に密着するマスクです。マスクは素材云々よりも、隙間から入ってくるのです。隙間がないと呼吸するときに苦しいので、長く着用することはできません。

飯田) 顔に密着しているマスクは。

青山) 目からも感染しますので、ゴーグルもしました。それもゴーグル跡がしっかりとつくくらい、強いものでないといけないのです。マスクをしていれば安全というわけではありません。逆にみんなマスク生活のなかで、「マスクをしていれば安全」という概念があることを心配します。

飯田) マスクをしていれば安全なわけではない。

青山) ただし、「人混みに行くな」という話をしているのではありません。私は4月30日から、アメリカの真珠湾にあるインド太平洋軍の司令部に行きますが、そのときもマスクをする予定はありません。米軍はしていないと思います。

5類移行後も「正しく恐れる」ことが大切

飯田) それよりも正しく恐れる、備えることが大事ですか？

青山) 「正しく恐れる」という言葉がよく使われますけれど、正しいことは、いまでも変わっていません。5類へ移行したら余計に考えなければいけません。

飯田) ウイルスは変わっていないですね。

型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5月8日に5類へと移行される。以降は感染しても外出制限がなくなるが、青葉区医師会会長で、自身も内科医の山本俊夫氏は「感染症であることに違いはない。人にうつさない、人からうつらない、という対策は変わらない」と呼びかけている。

感染症法では、危険性の程度などに応じて1類を最上位として5類までを基本に感染症を分類している。今回の措置は新型コロナをインフルエンザと同等の5類に変更するもの。5類移行で大きく変わるのは、感染後の外出制限がなくなるだけではなく、患者登録や健康観察等はなくなり、濃厚接触者も特定しないこと。また、罹患した際に対応する医療機関も従来の「発熱診療等医療機関」に加えて拡大される。一方、一部を除いて他の疾病と同様に検査や診療、薬代などに自己負担が発生するようになる。感染動向も全数把握から特定の医療機関が報告する定点把握へと変わる。

ワクチン接種については当面は公費のまま、自己負担はない。65歳以上の高齢者や5歳以上の基礎疾患がある人、医療従事者などは春夏（5月から8月）と秋冬（9月から12月）の2回接種、その他の人は秋冬（同）の1回接種を実施する。

「感染症に変わらない」

山本氏は移行後も「まだ5類。感染症であることに変わらない」と強調し、「基本的な対策は何類になろうと変わらない」と話す。

外出制限はなくなるが、新型コロナは発症2日前から発症後7～10日間までは感染力があり、特に発症後5日間は感染させるリスクが高いと改めて説明。抗原検査キットなどを用いて感染が分かった場合は、最低でも5日間は外出を控え、自宅待機を推奨するとし、どうしても外出が必要な場合は症状がないことを確認し、マスク着用の徹底が必要だとした。また、高齢者や幼児と関わる職業などの場合は10日間の自宅待機を強く勧めるとい

う。同じ5類のインフルエンザと新型コロナの比較では、死亡率や感染力の点では大きな違いはないのではと山本氏は推測。その上で「インフルエンザには効果的で副作用の少ない治療薬があるという違いがある」と話し、新型コロナに対してはより注意が必要だと話す。今後の感染予防として、うがいや手洗い、消毒の継続を呼びかけている。